

品切れ寸前

2020年1月10日現在

残  
3  
組

入手ラストチャンス!

★「赤い鳥」後継誌  
(1918~1936)

複製版

赤とんぼ

全31冊  
別巻1

●原誌発行  
昭和21年4月  
~23年10月

子供たちの世界をいつも美しい豊かな讀物でいつばいにしておきたい——それはわれわれの常に抱きつづけて来た強い願望であつた。しかしそれも永い戦争と暗黒政治の間には、とど毎に妨害され壓迫されつづけて来た。子供たちは所謂「ヨイコードモ」になるやうにとまびしい神にはめられ、馬車馬のやうに一つの道を走らされてゐた。今やこの子供たちの肩からその軛を脱し目かくしをとりぬく時が来た。心豊かな明るい讀物を澤山に與へることによつて、こんなに美しい世界があつたのか、こんなにたのしい場所があつたのかと、思はず大聲をあげて喜ぶ子供たちの姿を思ふ時、われわれの心は躍るのである。われわれは何にとらはれることもなく、あらゆる面から、あらゆる階層の人の協力を得て、子供たちの世界に限りなき夢と知識の泉をそそぎかけたいと願つてゐる。どん底に落ちた日本を美と力に満ちた國に作り上げて行かねばならぬ今の子供たちに、どちらへもかたよらぬ豊かな情操を養ひ、靄い心と正しい判断力を持つた人間にするやうに、あらゆる努力を傾倒したいと思つてゐる。大正の頃鈴木三重吉氏によつて主唱された赤い鳥の運動をわれわれはまだ昨日のことのやうに覚えてゐる。われわれの今度の仕事を通じて子供の世界にもう一度輝かしく文藝復興の時が將來されたならその喜びは限りない。子を思はぬ親はなく、子孫に期待しない愛國者はあるまい。願はくはすべての有志の方々との協力によつてこの仕事を今のわれわれの爲し得る最上の贈物としてわれわれの後継者の手に捧げたい。

〔赤とんぼ會〕 大佛 次郎 川端 康成  
岸田 國士 豊島與志雄 野上彌生子

●創刊号  
(1946・昭和21年4月)  
表紙と目次頁より



赤とんぼ 四月・第一號

椎の木……………豊島與志雄 3  
田園都市……………青木 茂 12  
冬の朝……………木内高晋 17  
雪を消す話・中谷吉郎 24  
本のさしゑ・緒方富雄 32  
飛ぶ教室……………ケストナー 38



《原装》複製  
フルカラー

再現



学術資料出版  
大空社出版

TEL: 03-5963-4451  
eigy@ozorasha.co.jp  
〒114-0032 東京都北区中十条4-3-2

品切れ寸前  
2020年1月10日現在

3組 残り

# 複製版 赤とんぼ

複製版編集 上笙一郎・長谷川潮 編集協力 菊永謙  
(化粧箱入) A5判・並製・平均64頁/別巻：上製347頁  
[大空社2010.2刊] ISBN978-4-283-00744-4  
揃・本体85,000円+税

**【特色】**①戦後最初に創刊された児童雑誌(1946.4～48.10 実業之日本社)、後に残る重要な作品・作家を多数掲載。竹山道雄「ビルマの豎琴」、ケストナー「飛ぶ教室」等、多くは本誌が初出。稀少性から「幻の児童雑誌」と呼ばれていた。②童話・童謡(歌詞・楽譜)・詩・各種読み物・綴方・イラストレーションと児童文化全般にわたる豪華執筆者。③全国の教育現場から投稿を得た戦後綴方教育の実践記録(川端康成が選)。④様々な読物コーナー(科学・社会・人文、良書予報、匿名筆者によるエッセイ等)⑤戦後日本社会の生の雰囲気を知る様々な材料を提供。⑥発刊当時の生徒・指導者による記録・回想を含む論集を別巻として編集。



\*詳細内容見本進呈。  
いますぐご請求ください。

## 別巻

児童雑誌『赤とんぼ』のすべて

上笙一郎  
長谷川潮  
編

### 目次(全)

#### 【総論】

二次大戦直後期の児童雑誌(上笙一郎)  
雑誌『赤とんぼ』の総合研究(長谷川潮)  
〈児童ジャーナリスト〉としての藤田圭雄(上笙一郎)

#### 【童話論】

『赤とんぼ』の童話作品について(藤田のぼる)  
青木茂『三太物語』の始原(関口安義)  
『ビルマの豎琴』と竹山道雄(長谷川潮)  
児童文学の建設：木内高音のことなど(宮川健郎)  
『赤とんぼ』の女性作家たち(尾崎るみ)  
『赤とんぼ』に掲載さらた翻訳ものの特徴(石澤小枝子)

#### 【童謡論】

『赤とんぼ』の詩・童謡(畑中圭一)  
『赤とんぼ』におけるサトウハチローの存在意義(菊永謙)  
野上彰の人と作品：孤独のザクロ(野呂昶)  
童謡詩人＝藤田圭雄の作品世界(尾上尚子)  
『赤とんぼ』の童謡作曲(早川史郎)

#### 【読物論】

多面的な教養読物(長谷川潮)  
『赤とんぼ』の綴方(太郎良信)  
『赤とんぼ』のイラストレーション(上笙一郎)

#### 【『赤とんぼ』記録】

『赤とんぼ』の創刊から『少年少女』廃刊まで〈再録〉(藤田圭雄)  
一投稿者としての記録(石澤小枝子)  
“あしながおじさん”だった父(末松氷海子)

#### 【『赤とんぼ』寸想】

頂門の一針(小沢信男)  
『赤とんぼ』に出会った喜び：広がる世界(川端律子)  
『赤とんぼ』と柳内先生(和田誠)  
「はじめての海」に(矢崎節夫)  
『赤とんぼ』雑感：「ビルマの豎琴」をめぐって(宮澤健太郎)  
『赤とんぼ』と子どもたちの生活史：雑誌は優しく応えてくれる(谷萩弘人)  
「レオポール・シヨーヴォ」のこと(いとうゆうこ)  
実業之日本社の新機軸(上田信道)  
鉛筆が翼であったころ(本間ちひろ) 付：総目次・作者別作品索引

学術資料出版

大空社出版

TEL: 03-5963-4451  
eigy@ozorasha.co.jp

〒114-0032 東京都北区中十条4-3-2